

ビニル被覆と薬剤散布を組み合わせたブドウ枝膨病の防除法							
<p>[要約] 3月下旬～7月上・中旬のビニル被覆とビニル除去後の薬剤散布を組み合わせた防除法は、露地栽培の1/3～1/5の薬剤散布回数でブドウ枝膨病の発病を顕著に抑制できる。また、この防除法は黒とう病やべと病等、他の主要病害にも高い発病抑制効果がある。</p>							
生産環境研究所・病害虫部・果樹病害虫研究室						連絡先	092-924-2938
部会名	園芸	専門	作物病害	対象	果樹類	分類	普及

[背景・ねらい]

ブドウ枝膨病の主要感染時期（5月～7月）にブドウのビニル被覆栽培を行うと、高い発病抑制効果が得られる。しかし、7月末まで被覆すると年によって果実の品質低下を招き、逆にビニル除去時期を早めると、その後に感染を受ける恐れがある。そこで、ビニル被覆とビニル除去後の薬剤散布を組み合わせた総合的防除の効果を実証する。

[成果の内容・特徴]

- ① 3月下旬～7月上・中旬のビニル被覆とビニル除去後の薬剤散布（※ル*液）を組み合わせると、露地慣行防除体系（薬剤散布のみ）の1/3～1/5の薬剤散布回数で、ブドウ枝膨病をはじめ、黒とう病やべと病などの重要病害の発病を顕著に抑制できる（表1、表2）。
- ② 7月上旬までビニル被覆を行っても、ブドウ果実の品質に影響しない（表3）。

[成果の活用面・留意点]

- ① ブドウ枝膨病多発地帯において‘巨峰’の減農薬栽培が可能となる。
- ② 7月以降までビニル被覆を行うと、年によっては果実品質（特に着色）が低下するので、梅雨明けが早く、高温乾燥が予想される年は6月下旬にビニルを除去する。

[具体的データ]

表1 ビニル被覆と薬剤散布の組合せによる枝膨病の発病抑制効果(平成3年)

試験区	総散布回数	調査枝数	黒色病斑発生枝率(%)	
			7/16	8/23
ビニル被覆	3	194	0	5.2
+ 薬剤散布				
露地慣行防除区	15	200	0	10.0

注) ①ビニル除去日: 7月16日

表2 ビニル被覆と薬剤散布の組合せによる枝膨病の発病抑制効果(平成4年)

試験区	総散布回数	調査枝数	枝膨病黒色病斑発生枝率(%)			黒とう病発病率(%)	べと病発病率(%)
			6/25	7/22	8/17		
ビニル被覆	4	100	0	0	0	0	0
+ 薬剤散布							
露地慣行防除区	12	100	0	0	4.5	0	0

注) ①ビニル除去日: 7月5日

表3 ビニル被覆による果実品質への影響(平成4年)

試験区	着色	糖度	酒石酸
ビニル被覆	7.5	18.7	0.39
+ 薬剤散布区			
露地慣行防除区	7.5	18.5	0.37

注) ①ビニル除去日: 7月5日 収穫時期: 9月20日

②調査時期: 11月16日

[その他]

研究課題名: ブドウ枝膨病の総合的防除技術の開発

予算区分: 国庫(地域重要)

研究期間: 平成4年度(平成3~4年)

研究担当者: 梶谷裕二、山中正博

発表論文等: 平成3~4年度生産環境研究所病害虫部果樹病害虫関係試験成績書